

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 2002127683 A

(43) Date of publication of application: 08.08.02

(51) Int. Cl

B43L 19/00

B65H 35/07

(21) Application number: 2000334929

(71) Applicant: KOKUYO CO LTD

(22) Date of filing: 30.10.00

(72) Inventor: KAWASHIMA TATSUHIKO

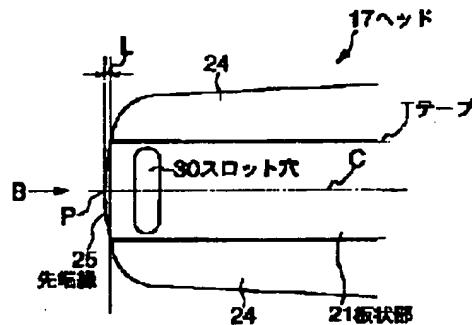
(54) HEAD STRUCTURE OF TRANSFER
ATTACHMENT

COPYRIGHT: (C)2002,JPO

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide the head structure of a transfer attachment, with which transfer attaching can be executed even under the state that a head does not take an upright posture nearly normal to a surface to be transfer-attached.

SOLUTION: Transfer attaching can be performed with a head 17 by spanning about a tape T equipped with a transfer attaching agent. The head 17 is made by equipping with a plate-like part 21 along the surface of the tape T. The tip edge 25 of the plate-like part 21 is provided so as to have a curved edge shape, in which the intermediate part of the tape T lies ahead beyond both its widthwise sides. Thus, even when the tip edge 25 of the head 17 contacts with the surface S to be transfer-attached under an inclined state, the transfer attaching agent locally contacts with the surface S to be transfer-attached, and the transfer attaching is performed.



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-127683

(P2002-127683A)

(43)公開日 平成14年5月8日(2002.5.8)

(51)Int.Cl.

B 43 L 19/00

B 65 H 35/07

識別記号

F I

B 43 L 19/00

B 65 H 35/07

マークコード(参考)

H 3 F 0 6 2

E

審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全5頁)

(21)出願番号

特願2000-334929(P2000-334929)

(22)出願日

平成12年10月30日(2000.10.30)

(71)出願人 000001351

コクヨ株式会社

大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号

(72)発明者 川嶋 龍彦

大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨ株式会社内

(74)代理人 100101188

弁理士 山口 義雄

Fターム(参考) 3F062 AA05 AB05 BA02 BA04 BB01

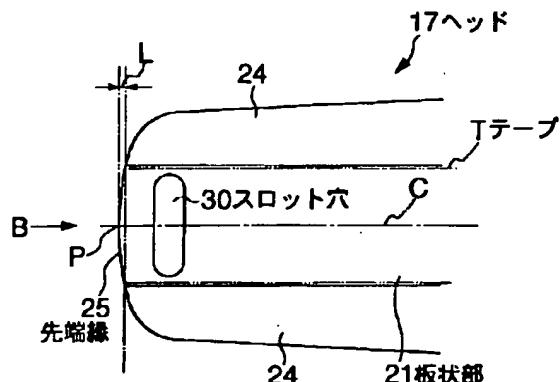
BF03

(54)【発明の名称】 転着器のヘッド構造

(57)【要約】

【課題】 ヘッドが被転着面に対して略直交する起立姿勢でなくとも転着を行うことができる転着器のヘッド構造を提供すること。

【解決手段】 転着剤を備えたテープTを掛け回して転着を行うことのできるヘッド17であり、当該ヘッド17は、テープTの面に沿う板状部21を備えて構成されている。板状部21の先端縁25はテープTの幅方向に沿う両側よりも中間が前方に位置する曲線形状に設けられ、これにより、ヘッド17の先端縁25が被転着面Sに対して傾いた状態で接触しても、転着剤を部分的に被転着面Sに接触させて転着を行うことが可能となる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 転着剤を備えたテープを繰り出し部から繰り出してヘッドを介して被転着面に押し付けることにより、前記転着剤を被転着面に転着可能とした転着器のヘッド構造において、

前記ヘッドの先端縁は、テープ幅方向に沿う両側よりも中間が前方に位置する形状に設けられていることを特徴とする転着器のヘッド構造。

【請求項2】 前記ヘッドは前記繰り出し部を備えたケースの内外に延びてテープの面に略沿う板状部を備え、この板状部の先端縁はテープの幅方向に沿う両側よりも中間が前方に位置する曲線形状に設けられていることを特徴とする請求項1記載の転着器のヘッド構造。

【請求項3】 前記先端縁よりも内方位置に、テープ幅方向に略沿う穴が形成されていることを特徴とする請求項2記載の転着器のヘッド構造。

【請求項4】 転着剤を備えたテープを繰り出し部から繰り出してヘッドを介して所定の被転着面に押し付けることにより、前記転着剤を転着可能とした転着器のヘッド構造において、

前記ヘッドの先端縁よりも内方位置に、当該先端縁の位置を後退させる方向に変形を許容する穴が形成されていることを特徴とする転着器のヘッド構造。

【請求項5】 前記穴は、ヘッドの先端側コーナーに沿って形成されていることを特徴とする請求項4記載の転着器のヘッド構造。

【請求項6】 前記ヘッドの先端縁はテープの幅方向に沿う両側よりも中間が前方に位置する曲線形状に設けられていることを特徴とする請求項4又は5記載の転着器のヘッド構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は転着器のヘッド構造に係り、更に詳しくは、ヘッドの先端が被転着面に対して傾いた状態で当たられた状態でも確実に転着を行うことのできる転着器のヘッド構造に関する。

【0002】

【従来の技術】近時、文字、記号を白色の転着剤で隠蔽して修正を行うことができるようになった転着器が広く利用されている。この転着器は、手を持って利用することができる程度の大きさを備えたケースと、このケースの先端部に装着されたヘッドと、ケース内に配置されるとともに、片面に転着剤を積層してなるテープを保持する繰出ローラと、この繰出ローラから繰り出されるテープをヘッドを経て巻き取る巻取ローラとを備えて構成されている。

【0003】公知のヘッドとしては、例えば、図8及び図9に示されるタイプのものが存在する。このヘッド50は、図示しないケースの先端部に位置して当該ケースの内外に延びる板状のヘッド本体51と、このヘッド本

体51の先端部左右両側に設けられてテープの幅方向位置ずれを規制する一对の翼片部52とを備えて構成され、これら翼片部52間の先端縁54は、ヘッド本体51の長手方向に対し、同一平面内で直交する直線方向に設けられている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、公知のヘッド50は、先端縁54が直線方向に延びている構成であるため、図10に示されるように、被転着面Sに対して、傾いた状態で転着を行おうとすると、先端縁54位置のテープTが被転着面Sに接触できない状態をもたらして転着を不可能にするという不都合がある。従って、転着を行うためには、ヘッド50を被転着面Sに対して略直交する起立姿勢にしなければならず、転着姿勢が極めて制限的になるという不都合を招来する。

【0005】

【発明の目的】本発明は、このような不都合に着目して案出されたものであり、その目的は、ヘッドが被転着面に対して略直交する起立姿勢でなくても転着を行うことができる転着器のヘッド構造を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するため、本発明は、転着剤を備えたテープを繰り出し部から繰り出してヘッドを介して被転着面に押し付けることにより、前記転着剤を被転着面に転着可能とした転着器のヘッド構造において、前記ヘッドの先端縁は、テープ幅方向に沿う両側よりも中間が前方に位置する形状に設けられる、という構成を探っている。このような構成とすれば、ヘッドの先端縁が被転着面に対して傾いた姿勢で当たる場合でも、テープの幅方向端部側が被転着面に接触できる状態を得ることができる。従って、この部分的な接触が行われることで、転着器を横方向に移動させたときに、テープから転着剤を剥離する力が加えられるようになり、転着剤を被転着面に対して確実に転着させることができる。

【0007】

【発明の実施の形態】本発明において、前記ヘッドは前記繰り出し部を備えたケースの内外に延びてテープの面に略沿う板状部を備え、この板状部の先端縁はテープの幅方向に沿う両側よりも中間が前方に位置する曲線形状に設けられる、という構成を探るといい。これにより、既存のヘッド形状を大幅に設計変更せずに経済的な負担を伴うことなく確実な転着を実現することができる。

【0008】更に、前記先端縁よりも内方位置に、テープ幅方向に略沿う穴を形成することが好ましい。このような穴を設ければ、ヘッドが傾いた状態で転着される場合でも、転着時の押し付け力が反力としてヘッドの先端縁に生じ、当該先端縁が被転着面に倣うように変形してテープの接触領域を拡大することが可能となる。

【0009】また、本発明は、転着剤を備えたテープを

繰り出し部から繰り出してヘッドを介して被転着面に押し付けることにより、前記転着剤を転着可能とした転着器のヘッド構造において、前記ヘッドの先端縁よりも内方位置に、当該先端縁の位置を後退させる方向に変形を許容する穴が形成される、という構成も採用することができる。このような構成では、ヘッドが被転着面に対して傾いても、ヘッドを被転着面に押し付けたときの反力によって先端縁が後退する方向に凹むような変形を生じて転着剤を被転着面に接触させることができる。この際、穴は、ヘッド先端側のコーナーに沿って形成することが好ましく、これにより、被転着面にテープを接触させる確実性を一層高めることができる。また、ヘッドの先端縁形状を、テープの幅方向に沿う両側よりも中间が前方に位置する曲線形状に設ける構成を併せて採用するとよい。このような構成を併用すれば、曲線形状と穴とが相互に作用して一層容易且つ確実に転着を行うことが可能となる。

【0010】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面を参照しながら説明する。

【0011】図1には、本実施例に係る転着器の概略正面図が示されている。この図において、転着器10は、横方向に長いケース11と、このケース11の後部側、すなわち図1中右側の内部に設けられるとともに、外周にテープTを巻装してなる繰出部としての繰出ローラ14と、この繰出ローラ14の前部側に隣接配置された巻取ローラ15と、ケース11の前部に設けられるとともに、繰出ローラ14からのテープTをケース11の前端よりも外に引き出した後に再びケース11内に戻るようになに反転させるヘッド17とを備えて構成されている。

【0012】前記繰出ローラ14と巻取ローラ15の各回転中心軸上には、ブーリ18、19が設けられており、これらのブーリ18、19間にベルト20が掛け回され、これにより、各ブーリ18、19が同期して回転し、繰り出された転着済のテープTを順次巻き取りできるようになっている。

【0013】テープTは、樹脂フィルムを基材とした長い帯状をなし、このフィルムの一方の面に隠蔽効果を有する白色の転着剤を積層したものによって構成されている。転着剤は、テープTを繰出ローラ14の外周に巻装したときに外側に表出するようになっており、これにより、ヘッド17位置で転着剤を紙面等の被転着面S(図6参照)に転着することが可能となる。

【0014】前記ヘッド17は、図2ないし図5に示されるように、ケース11の前端側で当該ケース11の内外に延びる細長い板状部21を備えて構成されている。この板状部21の後端、すなわち、図2中右端には、ケース11内の図示しない支持軸に支持される軸筒23が設けられている一方、左側領域の短寸幅方向両側には、テープTの幅方向に沿う位置ずれを規制する側面視略三

角形状をなす一对の翼片部24、24が板状部21と一緒に成形されている。これら翼片部24、24と板状部21の先端縁25は、図4に示されるように、板状部21の短寸幅方向に沿う中間、本実施例では、中心線C上にある先端Pが、テープTの幅方向両側に対応する位置よりも寸法し分だけ最も前方に位置するような曲線形状に設けられている。従って、先端縁25に沿うテープTは曲線に沿うように巻き掛けられることとなる。

【0015】前記板状部21において、先端縁25よりも若干内方位置には、板状部21の幅方向に沿って延びるスロット穴30が形成され、このスロット穴30により、図4中矢印B方向から外力が付与されたとき、すなわち、転着のための押し付け力が付与されたときに、その反力によって先端縁25が内方に凹むように後退移動して変形できるようになっている。

【0016】本実施例に係るヘッド17を用いた転着に際し、図10で示した従来例と同一条件の傾きを与えた場合、図6に示されるように、先端縁25の曲線形状により、幅方向一端側が被転着面Sに対して接触できるようになる。従って、この状態で、図6中紙面直交方向に転着器10を移動させることにより、被転着面Sに非接触となっている転着剤も引っ張られて転着することができる。

【0017】従って、本実施例によれば、転着器を使用する場合の姿勢に傾きがあっても転着を行うことができ、転着時の姿勢条件を緩和して転着不良を未然に防止することができる。また、スロット穴30の存在により、先端縁25が被転着面Sに押されて凹むように作用するため、つまり、傾きがあっても先端縁25が被転着面Sに倣うように変形できるため、テープTの接触領域の拡大を図って更に良好に転着を行うことが可能となる。

【0018】なお、実施にあたり、図7に示されるように、翼片部24、24の先端を板状部21の先端よりも若干内方位置で終わらせ、先端縁25の各コーナーに沿った略L字状若しくは略C字状の長穴35を設けるようにも、前記実施例と同様の変形を伴って良好なる転着を行うことが可能となる。なお、図7では、先端縁25の中央部領域を直線として曲線形状を採用していないが、図4で示したように、先端縁25を曲線形状とすることもできる。

【0019】また、前記実施例におけるヘッド17は、翼片部24を除き、全体が扁平な板状となる形状を備えたものを図示、説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、線材を適宜折り曲げてヘッドを形成することもできる。この場合でも、先端縁を前記実施例のように曲線形状にすれば足りる。また、前記実施例では巻取ローラを備えた転着器を採用したが、繰出ローラのみで巻取ローラを有しないタイプの転着器にも適用することができる。

【0020】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、ヘッドの先端縁がテープの幅方向に沿う両側よりも中間が前方に位置する形状に設けられているため、ヘッドが被転着面に対して傾いた姿勢で当てがわれても、テープの幅方向端部側が被転着面に接触できる状態を得ることができる。従って、被転着面に対するテープの部分的な接触を実現してテープから転着剤を剥離することができるようになり、転着器の転着姿勢の制限を緩和して転着を行うことが可能になる。

【0021】また、本発明は、ヘッドの板状部の先端縁が、テープの幅方向に沿う両側よりも中間が前方に位置する曲線形状に設けられる構成であるため、既存のヘッド形状を僅かに設計変更するだけで足り、経済的な負担を伴うことなく提供することが可能となる。

【0022】更に、板状部の前記先端縁よりも内方位置に、テープ幅方向に略沿う穴を形成した構成では、転着時の押し付け力が反力としてヘッドの先端縁に生じ、当該先端縁が被転着面に倣うように変形してテープの接触領域を拡大することができる。

【0023】更に、ヘッドの先端縁が直線形状若しくは曲線形状の何れの場合でも、前記先端縁の位置を後退させる方向に変形を許容する穴を形成することによって転着剤を被転着面に接触させることができる。特に、ヘッド先端側のコーナーに沿って穴を形成した場合には、被*

* 転着面にテープを接触させる確実性を一層高めることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例に係る転着器の概略構造を示す正面図。

【図2】転着ヘッドの概略拡大斜視図。

【図3】転着ヘッドの平面図。

【図4】転着ヘッドの先端部領域を示す拡大平面図。

【図5】図3のA-A線に沿う矢視断面図。

【図6】前記転着ヘッドの作用説明図。

【図7】転着ヘッドの変形例を示す平面図。

【図8】従来の転着ヘッドを示す概略斜視図。

【図9】従来の転着ヘッドを示す平面図。

【図10】従来の転着ヘッドの作用説明図。

【符号の説明】

10 転着器

11 ケース

14 繰出ローラ（繰り出し部）

17 ヘッド

21 板状部

20 25 先端縁

30 スロット穴

35 長穴

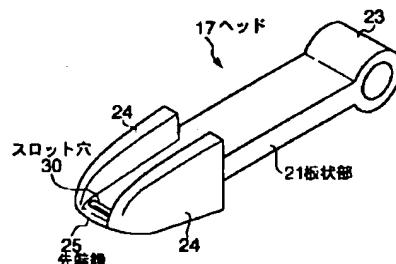
T テープ

S 被転着面

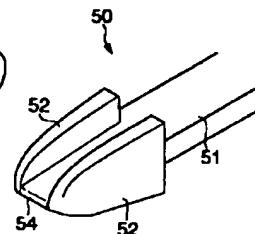
【図1】



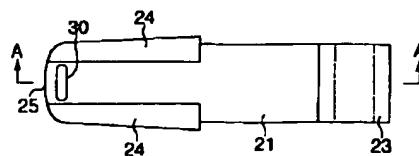
【図2】



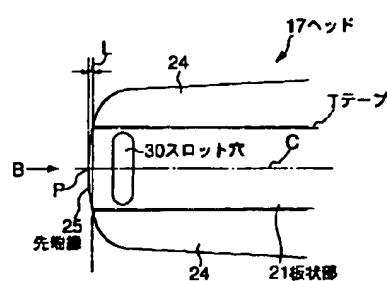
【図8】



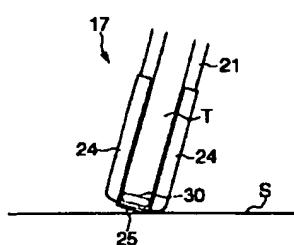
【図3】



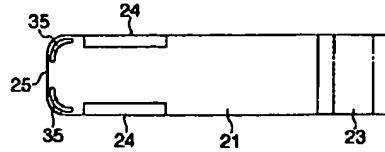
【図4】



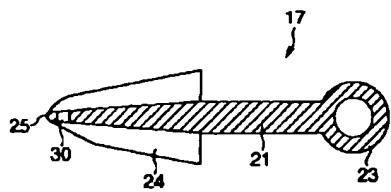
【図6】



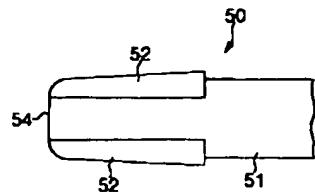
【図7】



【図5】



【図9】



【図10】

